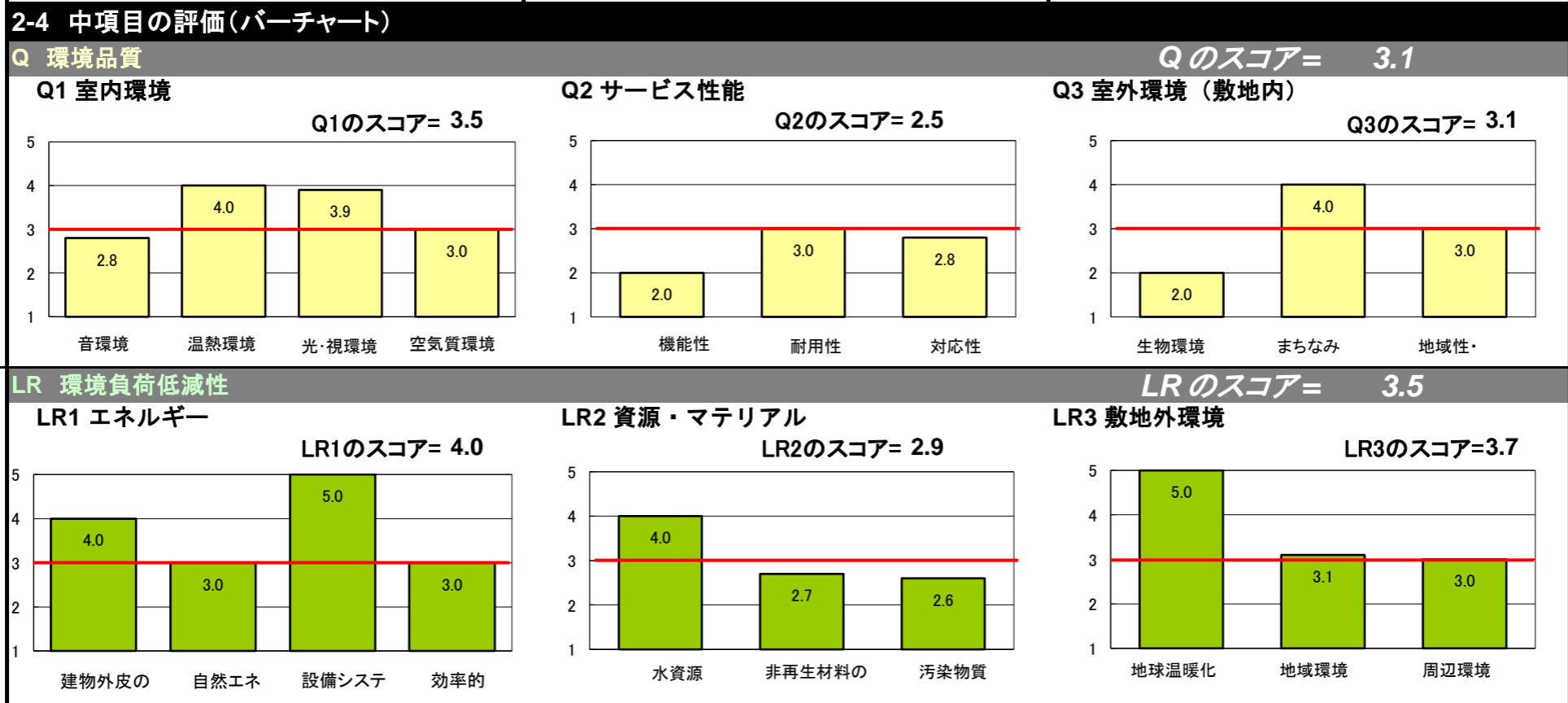
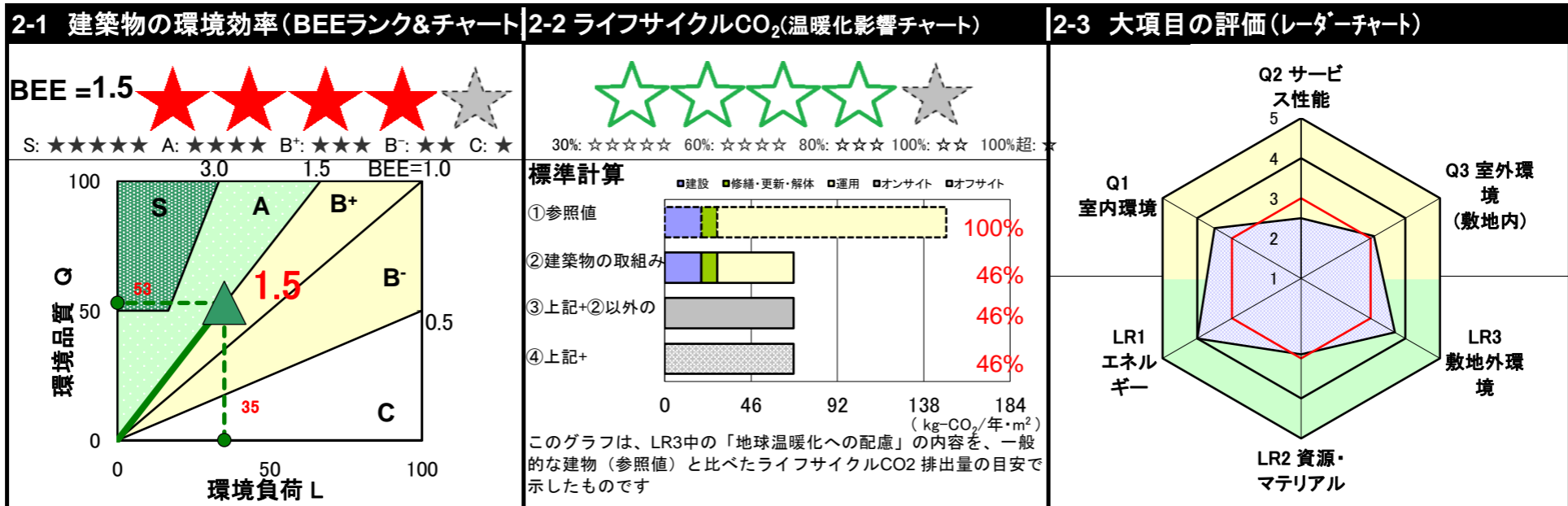


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	清水住宅(第6工区)	階数	地上9階
建設地	東海市荒尾町水原1番1、1番2、1番3、1番4、1番5、1番6、1番8、1番9、1番10、1番11、1番12、木戸畑9番3、9番4、49番1、49番7、神崎5番1、5番2、5番3、東川1番第1、1番5、53番第1、59番2、59番3、北見田13番5、13番7、13番8、49番2	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、防火指定なし、22条区域	平均居住人員	193人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年1月 予定	評価の実施日	2019年8月29日
敷地面積	3,910 m ²	作成者	狭間敦司
建築面積	583 m ²	確認日	2019年8月29日
延床面積	3,519 m ²	確認者	坂口博文



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>5.0</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>13.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>2.8</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>2.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>植栽にハナミズキを採用</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
2 温熱環境											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ゾーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
3 光・視環境											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
4 空気質環境											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO ₂ の監視											
2 喫煙の制御											
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											

3 対応性・更新性				0.2	3.1	0.29	2.8	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり				-	-	-	2.6	2.6	0.50	
1 階高のゆとり				-	3.0	-		3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				3.0	3.0	-		2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				1.0	3.1	1.00				
1 空調配管の更新性			②		3.0	0.17				
2 給排水管の更新性					3.0	0.17				
3 電気配線の更新性					3.0	0.11				
4 通信配線の更新性					3.0	0.11				
5 設備機器の更新性					3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30				3.1
1 生物環境の保全と創出			独自③		2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		4.0	0.40				4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30				3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		3.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-				3.5
LR1 エネルギー					-	0.40				4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制					断熱等級4	3.0	4.0	0.33		4.0
2 自然エネルギー利用						3.0	3.0	0.17		3.0
3 設備システムの高効率化						一次エネルギー消費率100	3.0	5.0	0.33	5.0
4 効率的運用						0.1	3.0	0.17		3.0
集合住宅以外の評価										
4.1 モニタリング						3.0	-	-		
4.2 運用管理体制						3.0	3.0	-		
集合住宅の評価						1.0	3.0	1.00		
4.1 モニタリング						-	3.0	0.50		
4.2 運用管理体制						-	3.0	0.50		
LR2 資源・マテリアル						-	0.30			2.9
1 水資源保護						0.1	4.0	0.15		4.0
1.1 節水						3.0	4.0	0.40		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						0.6	4.0	0.60		
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	4.0	1.00		
2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	3.0	-		
2 非再生性資源の使用量削減						0.6	2.7	0.63		2.7
2.1 材料使用量の削減						-	2.0	0.07		
2.2 既存建築躯体等の継続使用						-	3.0	0.24		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②			-	3.0	0.20		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自			3.0	1.0	0.20		
2.5 持続可能な森林から産出された木材						3.0	3.0	0.05		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自			3.0	4.0	0.24		
3 汚染物質含有材料の使用回避						0.2	2.6	0.22		2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	3.0	0.32		
3.2 フロン・ハロンの回避						0.6	2.5	0.68		
1 消火剤						-	2.0	0.50		
2 発泡剤(断熱材等)						-	3.0	0.50		
3 冷媒						3.0	-	-		
LR3 敷地外環境						-	0.30			3.7
1 地球温暖化への配慮			①			-	5.0	0.33		5.0
2 地域環境への配慮						0.3	3.1	0.33		3.1
2.1 大気汚染防止						-	3.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善						-	3.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制						0.2	3.6	0.25		
1 雨水排水負荷低減			独自			-	-	-		
2 汚水処理負荷抑制						-	3.0	0.33		
3 交通負荷抑制			独自			-	5.0	0.33		
4 廃棄物処理負荷抑制						-	3.0	0.33		
3 周辺環境への配慮						0.3	3.0	0.33		3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						0.4	3.0	0.40		
1 騒音			独自			-	3.0	1.00		
2 振動			独自			-	-	-		
3 悪臭						-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制						0.4	3.0	0.40		
1 風害の抑制						-	3.0	0.70		
2 砂塵の抑制						-	3.0	-		
3 日照障害の抑制						-	3.0	0.30		
3.3 光害の抑制						0.2	3.0	0.20		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						-	3.0	0.70		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						-	3.0	0.30		

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:13.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		2.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	植栽にハナミズキを採用

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 清水住宅(第6工区)

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 建物建設による周辺環境への影響が少なくなるよう計画しました。また、日照条件等を考慮し建物位置を南側としました
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 仕上材、下地材とも全てF☆☆☆☆材としました。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 各住戸はTEL、TV、非常通報装置を設置しました
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 地帯をなるべく多く設置しました。 緑
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 断熱等級4及び一次エネルギー消費率100%以下としました。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 土間下、基礎下にはRC40を使用しました。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 舗装は透水性舗装としました。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難しい環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。